

実務経験のある教員による授業科目のシラバス

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時 間 数 | 配 当 年 次 | 学 期 | 担 当 者 |
|---|--|--|---------|------|--|
| 看護学概論 | 1 | 30 | 1 | 1 学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 1. 看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について学習し、看護の本質と看護の対象としての人間を理解する。 2. 保健医療福祉における看護の役割・機能について理解する。 3. 看護実践の基礎となる看護理論について学ぶ。 4. 看護実践に関連する法令及び看護倫理を学ぶことにより、倫理的判断に基づく行動の基礎的能力を養う。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 序 看護学概論で何を学ぶか 1. 看護の概念 1) 看護とは 2) 看護の主要概念 | | | | |
| 2 | 3) 演習：看護の主要概念 | | | | (演習/グループワーク) |
| 3 | 4) 演習：主要概念演習の発表・まとめ | | | | |
| 4 | 2. 看護の定義 1) ナイチンゲール 2) ヴァージニア=ヘンダーソン | | | | 夏季休業課題 ：「看護覚え書」「看護の基本となるもの」を読んでレポート |
| 5 | 3. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践と質保障に必要な要件 3) 看護の質保障に不可欠な要件 4) 看護の役割・機能の拡大 | | | | |
| 6 | 4. 看護の対象 1) 看護の対象としての人間 (成長発達する存在、ライフサイクルと発達課題、ニーズをもつ存在 生活者としての存在、適応する存在、社会・文化的存在) 2) 健康障害を抱えた人の理解 3) 看護の対象としての家族 | | | | |
| 7 | 5. 看護活動の場 1) 看護が実践される場 2) 病院の組織・構造 3) 病院内での看護活動 4) チームアプローチ (チームカンファレンス、看護の継続性、 他職種との連携・協働) | | | | |
| 8 | 6. 看護の歴史 1) ナイチンゲール以前の看護 2) 近代看護の確立 3) アメリカにおける看護学の発展 | | | | |
| 9 | 7. 日本における看護の変遷 1) 職業としての看護の確立 2) 看護教育の変遷 | | | | |
| 10 | 8. 看護理論 1) 看護理論とは 2) 看護理論に基づいた実践 3) 演習：説明 | | | | (演習/グループワーク) |
| 11 | 3) 演習：看護理論家を一人選択し、その看護理論について理解を 深める | | | | (演習/グループワーク) |
| 12 | 3) 演習：看護理論演習の発表・まとめ | | | | |
| 13 | 9. 看護実践に関連する主要法令と基準・規定 1) 主要法令 2) 看護者の倫理綱領 3) 看護業務基準 | | | | |
| 14 | 10. 看護における倫理 1) 医療倫理 2) 看護倫理 3) 倫理的問題と取り組み 4) 看護学生の実習における倫理 | | | | |
| 15 | 看護学概論まとめ | | | | (45分) |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会 やさしく学ぶ看護理論 日総研 | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|--|--|---|------|-----|--------------|
| 看護基本技術 I | 1 | 30 | 1 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 看護実践の中心となる技術の考え方について学び、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立・経済性を考えた技術を追求する姿勢を養う。人間関係の基礎となるコミュニケーションについて演習を通して学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1.看護技術とは 2.看護技術の特徴 3.看護技術の基本原則（事故防止・感染防止） 4.看護技術を適切に実践するため要素 5.安全・安楽・自立性・経済性を促す援助 | | | | |
| 2 | 6.看護技術の検証①：衛生的な手洗い | | | | (講義/演習) |
| 3 | 6.看護技術の検証②：温罨法・冷罨法 | | | | (講義/演習) |
| 4 | 7.看護技術の検証③：生活援助技術の検証 *「環境」「活動・休息・体位・姿勢」「清潔・衣生活」「食事」「排泄」 安全・安楽・自律性・経済性についての主観的・客観的検証 | | | | (グループワーク) |
| 5 | 安全・安楽・自律性・経済性についての主観的・客観的検証 | | | | (グループワーク) |
| 6 | 安全・安楽・自律性・経済性についての主観的・客観的検証 | | | | (発表) |
| 7 | 7.看護介入技術 8.看護技術の「サイエンス」と「アート」 根拠に基づいた看護<EBN>の概念 ケアを通じてもたらされる安楽 | | | | (講義45分) |
| 8 | 9.コミュニケーションの意義と目的 10.コミュニケーションの種類 言語的・非言語的コミュニケーション・面接技法 | | | | |
| 9 | 11.コミュニケーションの構成要素と成立過程 コミュニケーションの構造とプロセス コミュニケーション技法 | | | | |
| 10 | 12.関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近性コミュニケーションの原理、接近行動 援助的関係の形成：信頼関係の構築、看護の対象との協働 | | | | |
| 11 | 13.多様な人々とのコミュニケーション | | | | 課外活動 レポート |
| 12 | 14.看護場面でのコミュニケーション演習① 患者への接近（挨拶・表情・聞く・聴く・訊く） | | | | (SPによる演習) |
| 13 | 14.看護場面でのコミュニケーション演習② 様々な患者とのコミュニケーション (言語障害のある患者・聴覚障害のある患者) | | | | (SPによる演習) |
| 14 | 14.看護場面でのコミュニケーション演習③ 患者を取り巻く環境（個室・多床室）を考慮したコミュニケーション 意図的なコミュニケーション（情報収集） | | | | (SPによる演習) |
| 15 | 14.アサーティブネス アサーティブ アサーティブ行動 | | | | |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|---|---|---|------|-----|--|
| 看護基本技術Ⅱ | 1 | 30 | 1 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 看護実践の基本となる人の身体の生命徴候や状態を観察し、アセスメントする技術を学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントとは | | | | |
| 2 | 3. フィジカルアセスメントの基本技術 1) 視診 2) 触診 3) 聴診 4) 打診 | | | | (演習) |
| 3 | 4. 身体計測 身長、体重、皮下脂肪厚、胸囲、腹囲測定 | | | | (演習) 課題：各測定方法について |
| 4 | 5. バイタルサインとは バイタルサインの観察・意識・体温・呼吸・脈拍・血圧 意義、測定部位、方法、正常・異常、変動因子、使用物品 | | | | (講義) |
| 5 | 5. バイタルサインの観察 体温 呼吸 血圧 脈拍測定 | | | | (演習) |
| 6 | 6. 胸部、肺のフィジカルアセスメント① 水平・垂直位置の同定 視診・触診・打診 | | | | (講義/演習) 課題：胸壁・肺の解剖生理、触診方法 |
| 7 | 6. 胸部、肺のフィジカルアセスメント② 胸壁と肺の位置関係 打診・聴診 | | | | 課題：胸部の解剖生理、打診・聴診方法 |
| 8 | 7. 心臓、循環器系のフィジカルアセスメント 問診・視診・触診・聴診 | | | | (演習) 課題：心臓、肺・体循環、末梢循環の解剖生理、視診・触診・聴診方法 |
| 9 | 8. 腹部のフィジカルアセスメント① 腹壁と腹腔内臓器の位置関係 腹部イグザミネーションの原則 問診・視診・聴診・打診・触診 | | | | (講義/演習) 課題：腹部の解剖生理、聴診・打診・触診方法 |
| 10 | 8. 腹部のフィジカルアセスメント② 問診・視診・聴診・打診・触診 | | | | (演習) |
| 11 | 9. 筋、骨格系、運動機能の観察の実際 関節可動域測定・徒手筋力テスト・反射の評価 | | | | (講義/演習) 課題：関節可動域・徒手筋力テスト・反射 |
| 12 | 10. 感覚系のフィジカルアセスメント 問診・視診・触診・音叉による診察 11. 脳神経系のフィジカルアセスメント | | | | (講義/演習) 課題：脳の解剖生理、運動機能・小脳機能・意識障害の観察方法 |
| 13 | 12. 心理・社会的状態のアセスメント 問診(面接)・健康歴聴取 | | | | (講義/演習) |
| 14 | 13. 症状・徴候からのアセスメントの考え方 (事例で学ぶフィジカルアセスメント) | | | | (講義/演習) |
| 15 | 実技評価 | | | | (45分) |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック ～目と手と耳でここまでわかる～第2版 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科目 | 単位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担当者 |
|---|---|---|------|-----|--|
| 看護基本技術Ⅲ | 1 | 30 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 問題解決思考を基に看護実践していくためのプロセスである看護過程の展開方法を学ぶ。併せて看護実践に必要な、観察・記録・報告について学ぶ。 対象の健康にかかわる学習を支援する看護技術について学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授業内容 | | | | 備考 |
| 1 | 1. 看護過程とは 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素とその関係性 2. 看護過程の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション | | | | |
| 2 | 3. 看護過程と看護理論 1) 主な理論家の看護の視点、看護の枠組みと看護過程 (ヘンダーソン・オレム・ロイ) 2) ヘンダーソンの看護理論による看護過程の展開について | | | | 課題：ヘンダーソンの看護理論についてどのような理論か、1 4の基本的欲求についてまとめる |
| 3 | 4. 看護過程の構成要素：アセスメント 1) 情報収集の種類・分類、分析 2) 全体像の把握（関連図） | | | | |
| 4 | 5. 看護過程の構成要素：問題の明確化 1) 看護問題の明確化（看護問題の種類、優先順位、問題リスト） 2) 看護過程の構成要素：看護計画（目標設定） | | | | |
| 5 | 6. 看護過程の構成要素：看護計画・実施・評価 1) 看護計画の表記 2) クリティカルパス 3) 評価（評価の方法） | | | | |
| 6 | 7. 記録と報告 1) 意義、目的、原則、必要性和種類（基礎情報、計画、経過記録：POS、フローシート、フォーカスチャーターティング、看護サマリー） 2) 情報管理 3) 報告の目的・内容・方法 3) まとめ 看護過程と臨床判断 | | | | 講義 |
| 7 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開① 事例：症状のある患者（仮：発熱） 1) アセスメント（情報収集・分析） 2) 看護目標・看護問題抽出 3) 看護計画の立案 | | | | 演習（個人・グループワーク） |
| 8 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開① 3) 看護計画の立案（発表） | | | | 演習（グループワーク） |
| 9 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開① 4) 実施・評価（援助の評価） | | | | 演習（グループワーク） |
| 10 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開② 事例：生活動作が困難な患者（仮：骨折） 1) アセスメント（情報収集・分析） 2) 看護目標・看護問題抽出 3) 看護計画の立案 | | | | 演習（個人・グループワーク） |
| 11 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開② 3) 看護計画の立案（発表） | | | | 演習（グループワーク） |
| 12 | 8. 看護過程演習：現象に対する展開② 4) 実施・評価（援助の評価） | | | | 演習（グループワーク） |
| 13 | 9. 看護過程演習まとめ 看護過程と臨床判断 | | | | （45分講義） |
| 14 | 10. 学習支援技術① 1) 看護における学習支援 2) 学習支援の基本 3) 学習支援の実践① | | | | |
| 15 | 10. 学習支援技術② 3) 学習支援の実践② | | | | 演習（ロールプレイング） |
| 16 | 試験 | | | | （45分） |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 1) 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2) 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 3) 看護過程に沿った対症看護 学研 | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科目 | 単位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担当者 |
|--|--|--|------|-----|---|
| 生活援助技術Ⅱ | 1 | 30 | 1 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 人間の健康回復の基本となる生活行動の基盤である活動と休息について学び、その技術を習得する。 人間の生活行動の基盤となる清潔・衣生活について学び、その技術を習得する | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1.活動・運動、休息の意義 2.活動の意義と生理学的影響について 3.同一体位がもたらす影響 3)活動制限がもたらす影響 4)廃用症候群(症状・予防) 5)安静の目的と弊害 6)体位変換の必要性 | | | | 事前課題①：同一体位による身体への影響(体験) |
| 2 | 4.体位変換 1)体位変換の種類と特徴 2)体位変換における身体の使い方 3)ボディメカニクス技術の基本(作業域・作業姿勢・作業面・この原理、力のモーメント) 4)体位変換時の危険性 5.体位保持の援助 1)体位保持の目的 2)体位保持の実際(基本体位・特殊体位) | | | | (演習) 事前課題②：体位の特徴と実施 |
| 3 | 6.体位変換の実際 1)自然な身体の動き・この原理・力のモーメントの実践(起き上がり動作・立位動作・仰臥位→側臥位) 2)長座位から端座位・端座位から立位 | | | | (演習) 事前課題③：ボディメカニクス技術の基本を活用した体位変換 |
| 4 | 7.体位変換の実際 3)水平移動(一人で行う場合、二人で行う場合、スライディングシートの活用) 8.移動の実際 ベッドから車椅子への移乗(端座位から車椅子移乗) | | | | (演習) 事前課題④：車椅子移動の方法・根拠・留意点について |
| 5 | 9.移動・移送の援助 歩行時の援助 1)車いす移動 2)ストレッチャー 3)杖歩行 4)歩行器 5)移動・移送時の危険性 10.車椅子の移送・ストレッチャーの移乗と移送(演習) | | | | (講義/演習) 事前課題⑤：移動・歩行を援助するための道具について(使用時の留意点) |
| 6 | 11.移動の実際(演習) ベッドから車いすの移動の実際 | | | | (演習) 事後課題⑥：一連の移動技術実施 |
| 7 | 実技評価(活動) | | | | (45分) |
| 8 | 1.望ましい病衣とは 2.寝衣交換の実際 | | | | (講義/演習)45分 事前課題①：寝衣交換ワークシート作成 |
| 9 | 3.安全・安楽な清潔援助 1)対象に応じた方法の選択(身体各部の清潔援助) 2)清潔援助の準備 3)清潔援助時の環境調整 4)身体各部の拭き方 5)湯の調整と管理 6)拭き方の工夫 7)気持ちのよい援助の工夫 | | | | (講義/演習) |
| 10 | 4.全身清拭の実際(石鹸清拭含む) | | | | (演習) 事前課題②：全身清拭のワークシート作成 |
| 11 | 5.洗髪の援助 | | | | (演習) 事前課題③：洗髪のワークシート作成 |
| 12 | 5.洗髪の援助 | | | | (演習) 事前課題③：洗髪のワークシート作成 |
| 13 | 6.手浴、足浴の援助 | | | | (演習) 事前課題③：足浴のワークシート作成 |
| 14 | 7.陰部洗浄の援助 | | | | (演習) 事前課題④：陰部洗浄のワークシート作成 |
| 15 | 8.口腔ケアの援助(口腔・鼻腔吸引含む)について 9.口腔ケアの実際 | | | | (講義/演習) |
| 16 | 実技評価(清潔) | | | | (45分) |
| 17 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研 | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|---|---|-----|------|------|--|
| 診療援助技術 I | 1 | 30 | 1 | 2 学期 | 専任教員 |
| 授 業 の お ら い | | | | | |
| 微生物学の知識を活かし、感染防止における原理・原則について学んだ上で、診療の援助に必要な検体採取、呼吸を整える援助、創傷管理について学び、その技術を習得する。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1. 感染予防の意義 1) 感染成立の条件 2) 感染防止についての看護師の役割 3) 院内感染 2. 感染経路別予防策 1) 洗浄、消毒、滅菌法(使用器具の取り扱い) | | | | (講義) |
| 2 | 2. 感染経路別予防策 2) 医療廃棄物の処理 3) 感染性廃棄物の取り扱い 4) 感染拡大の防止の対応 3. スタンダードプリコーション(標準予防策の方法と実際) 1) 手指衛生(衛生的手洗い) 2) 防御用具(手袋、マスク、エプロン、フェイスシールド) | | | | (講義) |
| 3 | 4. 無菌操作の原則 滅菌法(使用器具の取り扱い) 滅菌防護具を必要とする援助と使用方法(滅菌手袋、滅菌ガウン) | | | | (演習) |
| 4 | 5. 創傷管理とドレッシング・包帯法 1) 創傷治癒を促進する条件 2) 無菌操作の方法と実際 3) 創傷の保護、固定 4) 止血法 | | | | (講義/演習) |
| 5 | 6. 検査をうける対象の理解(安全に検査を受けるための環境・条件) 1) 検査前・中・後の看護(CF) 2) 検査における看護師の役割 7. 検体検査(尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、髄液) 1) 検体の取り扱いと検査の援助 2) 検体検査の種類 3) 検査値に影響を与える生理的要因 4) 検体の取り間違い防止について | | | | (講義) |
| 6 | 9. 検体の採取方法②(血液) 目的・種類・検査項目・検体の取り扱い 1) 採血の種類・方法(静脈血採血法/動脈血採血法/毛細血管採血法) 2) 検体の採取方法 静脈血採血に使用する物品と使用方法 (1) 注射器の取り扱い (2) 駆血帯 (3) 感染防護具 (4) 静脈血採血の目的・手順・根拠 (5) 動脈血採血の目的・手順・根拠 | | | | (講義/演習) |
| 7 | 9. 検体の採取方法②(血液) 3) 静脈血採血の実施(シリンジ) | | | | (演習) |
| 8 | 9. 検体の採取方法②(血液) 4) 静脈血採血の実施(真空管) 真空管採血のしくみ 採血順序と項目 | | | | (演習) |
| 9 | 9. 検体の採取方法②(血液) 5) 静脈血採血の実施(準備～説明～採血～止血～片付け) | | | | (演習) |
| 10 | 10. 検体の採取方法③ 穿刺検査の看護(準備～合併症予防の援助) 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 骨髄穿刺 4) 腰痛穿刺 | | | | (講義/演習) |
| 11 | 11. 呼吸を整える援助(酸素療法) 1) 酸素療法の目的 2) 方法 3) 適応 4) 酸素供給源(中央配管・酸素ボンベ) 5) 経皮的動脈血酸素飽和度(SpO ₂)の測定 | | | | (講義) |
| 12 | 12. 酸素療法の実際(中央配管・酸素ボンベ) | | | | (演習) |
| 13 | 13. 呼吸を整える援助(吸引) 1) 吸引の目的 2) 種類(口腔鼻腔・気管内) 3) 適応 4) 方法 5) 体位ドレナージ | | | | (演習) |
| 14 | 14. 吸引の実際(口腔鼻腔内・気管内吸引) | | | | (演習) 口鼻腔吸引と気管内吸引の違いについてまとめる 滅菌物の取り扱い復習 |
| 15 | 実技評価(採血) | | | | (45分) |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 評価 | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科目 | 単位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担当者 |
|--|--|-----|------|-----|--------------|
| 診療援助技術Ⅱ | 1 | 30 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 診療の補助として必要な与薬について、薬理学の知識を活かし、薬剤・投与経路による生体への影響（作用と副作用・吸収と排泄）を理解した上で、反応を観察しながら正しい方法で確実に実施できる技術を習得する。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備考 |
| 1 | 1. 薬物療法とは 1) 薬物療法の意義、目的 2) 与薬の基礎知識 3) 薬物療法に関する法律 4) 薬物療法における看護師の役割 | | | | (講義) |
| 2 | 2. 薬のメカニズム 1) 薬物の剤系と与薬方法 2) 薬物動態（吸収経路・投与の際の注意事項・相互作用・副作用） 3. 薬物療法と医療安全 1) 薬物療法における医療事故について 2) 安全な薬物投与について | | | | (講義・グループワーク) |
| 3 | 3. 与薬の方法と実際① 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 点耳 6) 経皮的与薬(外用薬・貼用薬) 7) 直腸内腔内与薬 | | | | (講義) |
| 4 | 3. 与薬の方法と実際②（援助の実施） 1) 経口与薬 2) 直腸内与薬 3) 薬物療法と看護について | | | | (講義・演習) |
| 5 | 3. 与薬の方法と実際；注射法① 1) 皮内・皮下・筋肉内注射法 (1) 注射法の種類と適応 (2) 皮内・皮下・筋肉注射法と観察 | | | | (講義) |
| 6 | 3. 与薬の方法と実際；注射法② 2) 注射の準備 (1) アンプルのしくみ 吸い上げ | | | | (講義・演習) |
| 7 | 3. 与薬の方法と実際；注射法③ 1) 皮下注射の実際 2) 筋肉内注射の実際 | | | | (演習) |
| 8 | 3. 与薬の方法と実際；輸液法① 1) 目的 2) 適応 3) 種類と特徴 4) 合併症 5) 物品の構造と取り扱い 6) 輸液管理 7) バイアルのしくみ | | | | (講義・演習) |
| 9 | 3. 与薬の方法と実際；輸液法② 1) 点滴静脈注射の実際① (1) 薬液の混注（アンプル使用）と輸液ルートの準備 | | | | (演習) |
| 10 | 3. 与薬の方法と実際；輸液法③ 1) 点滴静脈注射の実際② (1) 薬液の混注（アンプル使用）と輸液ルートの準備 (2)トラブル対処 | | | | (演習) |
| 11 | 3. 与薬の方法と実際；輸液法④ 1) 点滴静脈注射の実際③ (4) 薬液の混注（バイアル使用）と輸液ルートの準備 | | | | (演習) |
| 12 | 3. 与薬の方法と実際；輸液法⑤ 1) 点滴静脈注射の実際④ (1) 静脈内穿刺（翼状針） (2) 固定・注入速度の設定 (3) 抜針 (留置針のしくみ、三方活栓のしくみ) | | | | (演習) |
| 13 | 4. 輸血法 1) 目的 2) 適応 3) 種類 4) 取り扱い 5) 副作用 6) 実施前・中・後の観察 | | | | (講義・演習) |
| 14 | 5. 薬物療法を受ける患者の看護 薬物の影響を考慮した生活援助 | | | | (講義・演習) |
| 15 | 実技評価(点滴の準備) | | | | (45分) |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 評価 | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 | | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|---|--|-----|------|-----|----------------------|
| 看護形態機能学 | 1 | 15 | 1 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の お ら い | | | | | |
| 人間のからだのしくみが、日常生活とどのように関連しているのかを学び、人間の理解と看護の展開に活かすための基本的な学習をおこなう | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1. 基本的な生活行動「動く」 1) 姿勢 2) 随意運動・反射 3) からだの基本的な動き（関節可動域） | | | | 事前課題 自らの生活行動をレポート |
| 2 | 1. 基本的な生活行動「動く」 1) 姿勢 2) 随意運動・反射 3) からだの基本的な動き（関節可動域） | | | | |
| 3 | 2. エネルギーの消費を減らす生活行動「眠る」 1) サーカディアンリズム 2) レム・ノンレム睡眠 3) 睡眠姿勢 | | | | |
| 4 | 3. 栄養吸収のための生活行動「食べる」 1) 食行動 2) 咀嚼 3) 嚥下 4) 消化と吸収 | | | | |
| 5 | 4. 排泄のための生活行動「トイレに行く」 1) 排泄動作 2) 排尿 3) 排便 | | | | |
| 6 | 4. 排泄のための生活行動「トイレに行く」 1) 排泄動作 2) 排尿 3) 排便 | | | | |
| 7 | 5. からだを清潔にするための生活行動「風呂に入る」 1) 清潔行動 2) 垢をおとす（皮膚の働き） 3) 皮膚と粘膜 4) 温まる（皮膚感覚） | | | | |
| 8 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | 講義および演習 | | | | |
| 評価 | 筆記試験（終講試験）および課題学習 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | | |
| テキスト | 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学 期 | 担 当 者 |
|--|--|--|------|-----|---------------------|
| 看護研究 | 1 | 30 | 2 | 1学期 | 専任教員 |
| 看護研究の意義・研究の基礎を学び、科学的に看護を追求する態度を養う。 事例を通して看護を振り返り、看護に必要な研究的態度を身につける。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1. 研究とは 1) 研究とは何か 2) 看護研究とは 3) 研究のプロセス | | | | 事後課題： リサーチクエスチョン |
| 2 | 2. 看護研究の始め方 1) リサーチクエスチョン 2) 文献検索 | | | | (演習) 事後課題：文献検索 |
| 3 | 3. 文献の読み方 1) クリティークとは 2) クリティークの実際 | | | | 事後課題：クリティーク |
| 4 | 4. 研究の設計と方法 1) 質的研究と量的研究 2) 研究デザイン 3) 研究デザインの種類と特徴 | | | | |
| 5 | 5. データの収集 1) データとは 2) データ収集法 3) 質的データと量的データの収集方法 | | | | |
| 6 | 6. データ分析 1) 質的データ分析の基本 2) 量的データ分析の基本 | | | | |
| 7 | 7. 研究計画書 1) 研究計画書とは 2) 研究計画書の書式と書き方 3) 研究内容の具体化 8. 研究における倫理的配慮 1) 看護研究における倫理の考え方 2) 研究対象者の権利 3) 研究同意書と同意に基づく実行 | | | | 事後課題：研究計画書作成準備 |
| 8 | 9. 研究計画書の実際 | | | | (演習) |
| 9 | 10. 論文の書き方及び研究成果の公表 1) 研究結果の書き方 2) 研究結果の発表 3) 論文作成時の留意点 | | | | (45分) |
| 10 | 11. ケーススタディ 1) ケーススタディとは 2) 目的 3) 意義 4) ケーススタディ計画書 | | | | |
| 11 | 11. ケーススタディ 5) レポート作成 | | | | (演習) |
| 12 | 11. ケーススタディ 5) レポート作成 | | | | (演習) |
| 13 | 11. ケーススタディ 5) レポート作成 | | | | (演習) |
| 14 | 12. ケーススタディ発表 | | | | |
| 15 | 12. ケーススタディ発表 | | | | |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験およびケーススタディ、授業中の課題（研究計画書） 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 | | | |
| その他 | | 参考資料：わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学 期 | 担 当 者 |
|--|--|-----|------|-----|-------|
| 地域・在宅看護概論 | 1 | 15 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 地域で療養する対象とその家族を支える在宅看護の意義と役割について理解する。また、在宅療養を支える社会保障制度や社会資源について学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1 | 1. 在宅看護とは 2. 訪問看護とは 3. 在宅看護の歴史と社会背景 1) 人口構成の変化 2) 国民の価値観 3) 療養の場 4) 社会保障費 4. 在宅医療・介護に関する仕組み 5. 疾病や障害を抱えた人の社会参加 | | | | |
| 2 | 6. 在宅看護の目的と特徴 7. 在宅チームケアの意義 8. 在宅ケアの目的 9. 在宅ケアにおける看護の特徴 | | | | |
| 3 | 10. 在宅看護の対象と健康レベル、生活 11. 生活の場の種類、生活様式と価値観 12. 在宅における安全管理と支援 13. 地域包括ケアシステム 14. 地域で療養する人を支える環境・保健・医療・福祉 | | | | |
| 4 | 15. 訪問看護を規程する法律 1) 介護保険制度 | | | | |
| 5 | 16. 訪問看護サービスの仕組みと提供 17. 訪問看護ステーションの設置基準 18. 訪問看護サービス開始までの流れ・展開・質保障 | | | | |
| 6 | 19. 在宅看護における倫理、対象者の権利擁護 1) アドボカシー 2) 成年後見制度 20. 家族の定義、機能 | | | | |
| 7 | 21. 意思決定支援 | | | | |
| 8 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | 講義および演習 | | | | |
| 評価 | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | | |
| テキスト | ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 家族看護学 理論と実践 日本看護協会 | | | | |
| その他 | | | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|--|--|--|------|-----|--|
| 成人看護学概論 | 1 | 15 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 成人各期の特徴を理解し、成人期にある対象が持つ健康問題や家族、社会が成人の健康に及ぼす影響について学ぶ。また、各健康レベルに応じて、成人が主体的に健康の維持、増進、疾病の回復、死の受容ができるよう看護の機能と役割、理論の基礎的看護アプローチの方法や内容を学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1* | 1. 成人について 1) 成人の定義 2) 成人期の区分と各発達段階と発達課題 3) 成人期 各期の特徴 (身体・心理・社会的な特徴) | | | | 事前課題 高齢者と成人との違い (家族・地域) (演習・講義) |
| 2 | 2. 成人期の人々の生活・暮らし・人生 (仕事・家族) 1) 成人の生活状況の特徴 2) 成人の人生観・健康観 3) 労働力人口 | | | | (演習) |
| | 3. 成人の健康の状況 1) 健康とは 2) ヘルスプロモーションと看護 地域における健康増進にむけた活動の実際 | | | | 事前課題 食事・たばこ・お酒等と健康 障害について (演習・講義) |
| 3* | 3) 成人期の生と死の動向 4) 健康の状況 (平均寿命・死因・有訴者率・通院者率・受療状況) 5) 健康バランスに影響を及ぼす要因 (生活習慣・ストレス・職業・感染・セクシャリティ等) 6) 成人各期の健康問題 | | | | (講義・演習) |
| 4* | 4. 成人の保健・医療・福祉に関わる施策 | | | | 事前課題 地域の健康に関する教育/指導 (広 報誌やテレビ、講演会等のお知ら せなど) について調べる (講義) |
| 5* | 5. 成人への看護アプローチの基本 1) 大人の学習と看護 2) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 | | | | (講義) |
| 6* | 6. 生活のなかで健康行動をはぐくむ援助・看護理論 健康行動理論 ・ エンパワメントエデュケーション等 | | | | (講義・演習) |
| 7 | 7. 成人期の看護の目指すもの 成人期での看護理論の活用について チームアプローチ 看護実践における倫理的判断 意思決定支援 家族支援 | | | | (演習・講義) |
| 8 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 小児看護学 [1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 | | | |
| その他 | | *必要に応じオンライン授業対応 | | | |

【専門分野】

| 科目 | 単位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担当者 |
|--|--|--|------|-----|---|
| 老年看護学概論 | 1 | 15 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| <p>老年期の特徴と老年期の対象を取り巻く社会を理解し、健康レベルに応じた看護の機能と役割を学ぶ。 高齢者の健康問題は、加齢による変化を基盤に生活環境、生活習慣、疾病、リハビリテーションなど多様な因子の影響を受けることから個別的で複雑な構造を持つことを学ぶ。 これらを踏まえて、社会構造の変化とこれからの保健・医療・福祉の現状と課題を学ぶ。</p> | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1* | 1. 老年期とは 1) 老いのイメージ 2) 老年期の定義と意義 3) 加齢と老化 2. 高齢者の時代背景に関連する人生と経験の多様性（生活史・価値観・生活習慣・生活様式） 3. 老年期における発達と成熟 | | | | 事後課題①：高齢者が「老い」についての現状や思いを表現した文章を読んで自己の考えをレポート提出する。 |
| 2* | 4. 加齢に伴う変化 1) 身体的変化（外皮系・感覚器系・消化器系・運動器系<サルコペニア>） 2) 心理的变化（喪失体験と適応・人格と尊厳・スピリチュアリティ） 3) 社会的変化（生活の場・生活習慣・役割と社会活動・余暇活動・家族機能・住宅環境・就労・雇用・収入・生計） | | | | |
| 3 | 5. 演習 高齢者疑似体験 | | | | （演習） 事後課題：高齢者について理解したこと（身体・精神・社会的側面）、必要な配慮や援助についてレポート提出する。 |
| 4* | 6. わが国の高齢化 1) 高齢化率・年齢3区分別人口 2) 平均寿命 3) 老年人口の将来推計 7. 高齢者の健康 1) 老年期の健康の捉え方と特徴（有訴者・受療の状況） 2) 生きがいと生活の満足感 8. 高齢者と家族 1) 介護する家族への看護 2) 介護する家族への看護 3) 介護家族の課題 | | | | |
| 5* | 9. 高齢者のリハビリテーション 10. 高齢社会における権利擁護 1) ステイグ・マ・エイジズ・アボドカシ 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) ノーマライゼーション 5) 擁護のための制度（成年後見制度・日常生活自立支援事業・自立支援とエンパワメント） | | | | |
| 6* | 11. 老年看護の理念 1) 老年看護実践の特徴（安全・安楽な生活への看護・健康の保持増進と廃用症候群の予防・疾病の治癒・回復の特徴をふまえた看護・個別の日常生活能力、目標に合わせた看護・人生の統合をはかる看護） 2) 在宅・施設につなげる看護（地域連携） 3) 高齢者の医療安全の特徴 | | | | |
| 7* | 12. 介護保険制度のしくみ 1) 保健医療福祉システムの変遷 2) 介護保険制度の整備 3) 高齢者医療のしくみ 13. 高齢者を支える職種と活動の多様化 1) 高齢者の施設・居宅サービスの特徴と看護（介護療養型医療施設・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護） 14. 高齢者を支える多様な職種（チームアプローチ含む） 1) 看護職の活動の拡大と専門化 | | | | |
| 8 | 試験 | | | | （45分） |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 | | | |
| その他 | | *必要に応じてオンライン授業対応 | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学 期 | 担 当 者 |
|--|--|--|------|-----|---|
| 老年援助論演習 | 1 | 30 | 2 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 老年期にある対象の理解および看護の方法を学び、老年期に特徴的な疾患の事例を通し知識の統合を図る。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1* | 1. 大腿骨頸部骨折の高齢者の看護 1) 情報収集 2) 大腿骨頸部骨折の病態と治療 | | | | <事前学習> 大腿骨頸部の病態・症状・治療DVD |
| 2 | 3) 手術を受ける高齢者の看護 (外来受診時、入院時、検査、手術前の看護) | | | | |
| 3 | 4) 牽引療法 | | | | (45分) (演習) |
| 4* | 5) 手術を受ける高齢者の看護 (手術から手術中の看護) | | | | |
| 5 | 6) 合併症予防の看護 | | | | (演習) |
| 6* | 7) 手術を受ける高齢者の看護 (手術後から退院への看護) | | | | |
| 7 | 8) 術後の体位変換と危険肢位の指導 | | | | (演習) |
| 8* | 2. 慢性心不全の高齢者の看護 1) 症状アセスメントと看護 | | | | |
| 9 | 2. 慢性心不全の高齢者の看護 1) 事例紹介 2) 関連図 | | | | <事前学習> 加齢による循環器系への影響 心不全の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状 |
| 10* | 3) 関連図 4) 問題リスト | | | | |
| 11 | 5) 看護計画立案 | | | | |
| 12* | 6) 慢性心不全の高齢者の看護 (症状コントロールに向けた援助) | | | | (演習) |
| 13 | 7) 慢性心不全の高齢者の看護 (家族ケア) | | | | (演習) |
| 14* | 8) 慢性心不全の急性増悪をきたした高齢者の看護 (看護計画の修正) | | | | |
| 15* | 3. 福祉支援機器、システム、地域と社会資源の活用 (地域連携・服薬管理・安全管理) | | | | |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 老年看護学 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[10]運動器 医学書院 | | | |
| その他 | | DVD:看護のためのアセスメント事例集vol. 1大腿骨頸部骨折患者の看護事例 *必要に応じてオンライン授業対応 | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|---|---|--|------|-----|-------|
| 小児看護学概論 | 1 | 15 | 1 | 2学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 小児期各期の特徴を理解し、小児が持つ健康問題や社会の変化が小児と家族に及ぼす影響について学ぶ。小児の成長発達を促すための家族に対する援助を理解する。小児を育てる家族が安心して育児にあたる環境づくりの在り方について学ぶ。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1* | 1. 小児の看護の変遷 1) 小児とは 2) 小児看護の概念 ①小児看護の特徴 ②小児医療の変遷と課題 ③現代の小児看護 2. 小児看護における看護の目標と役割 1) 小児看護の目標 2) 小児看護の役割 | | | | |
| 2* | 3. 小児の成長・発達の特徴 1) 成長発達とは 2) 小児の発達段階区分 3) 成長・発達の進み方 4) 成長・発達に影響する因子 5) 成長・発達の評価 6) 発達理論と発達課題 | | | | |
| 3* | 4. 小児各期の特徴 1) 乳児期・幼児期の特徴 2) 学童期・思春期・青年期の特徴 | | | | |
| 4* | 5. 現代社会における子どもをめぐる諸問題 1) 小児と家族の諸統計 ①人口構造 ②出生と家族（出生数・合計特殊出生率） ③子どもの死亡（周産死亡・乳児死亡・子どもの死亡） 2) 事故・いじめ・不登校・体罰・虐待・自殺 | | | | |
| 5* | 6. 小児の栄養 1) 栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 発達段階別の小児の栄養の特徴と看護 7. 家族の特徴とアセスメント | | | | |
| 6* | 8. 小児と家族を取り巻く社会 1) 政策・法律・制度 ①児童福祉法、母子保健法、子育て支援、児童の権利に関する条約、児童憲章 ②児童虐待防止法、学校保健安全法 ③医療費の支援 ④予防接種 | | | | |
| 7* | 9. 小児看護における倫理 1) 小児の権利と変遷 2) 児童の権利に関する条約 3) 看護場面での倫理 10. 小児の人権 1) 権利擁護（アドボカシー） 2) インフォームドアセント | | | | |
| 8 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 小児看護学 [1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 | | | |
| その他 | | *必要に応じオンライン授業対応 | | | |

【専門分野】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学 期 | 担 当 者 |
|--|---|---|------|-----|-----------------------------------|
| 母性援助論 I | 1 | 30 | 2 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助の方法を学ぶ。そして、援助については、妊産婦をとりまく家族、環境や社会の変遷なども踏まえた関わり方について考えることができる。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 備 考 |
| 1* | 1. 妊娠期 1) 諸定義 2) 妊娠の成立 3) 妊娠期の身体変化 4) 妊婦健康診査 | | | | |
| 2 | 1. 妊娠期 5) 妊娠の経過 ①妊婦のフィジカルアセスメントに必要な技術 ②検査 ③NST | | | | 演習：妊婦体験 |
| 3* | 1. 妊娠期 5) 妊娠期の経過 ④保健指導 ⑤生活を整えるための支援 ⑥嗜好品 ⑦薬剤 ⑧放射線 ⑨感染⑩マイナートラブル ⑪食事 | | | | 事前学習 ・妊娠、出産に関する情報を検索し各自提出 |
| 4* | 2. 分娩期 1) 分娩の区分 2) 分娩3要素：娩出力、産道、胎児および付属物 | | | | |
| 5* | 2. 分娩期 2) 分娩3要素 3) モニタリング 4) 分娩の経過 5) 回旋 6) 分娩第1期の看護①産痛緩和 ②呼吸法 | | | | |
| 6 | 2. 分娩期 講義 6) 分娩第1期の看護 ①産痛緩和 ②呼吸法 演習 1) 妊婦体操 2) 産痛緩和 ①呼吸法 ②補助動作 | | | | 演習 |
| 7* | 3. 産褥期 1) 定義 2) 経過 3) 退行性変化と進行性変化 ①退行性変化（子宮復古、悪露、会陰裂傷、性周期） | | | | |
| 8* | 3. 産褥期 ②進行性変化（乳房、乳汁分泌、10ヵ条）③母子相互作用 4) 母子・父子関係確立への援助 | | | | |
| 9* | 3. 産褥期 5) 褥婦の日常生活とセルフケア 6) マイナートラブル ①排尿障害 ②便秘 ③マタニティブルー 7) 母親への適応過程 | | | | |
| 10* | 3. 産褥期 7) 社会資源の活用 8) 産褥1か月までの褥婦への支援 | | | | |
| 11* | 4. 新生児 1) 定義 2) 出生直後の看護 3) 子宮外適応現象（胎外生活適応過程） 4) 新生児のバイタルサイン測定 5) 新生児の生理的変化を促す看護 | | | | |
| 12 | 4. 新生児 講義 9) 沐浴 10) 抱き方 演習 1) 沐浴 2) 抱き方 3) 衣服の着脱 | | | | 演習 事前学習：各自「沐浴」動画を視聴し手順をまとめておく。 |
| 13 | 5. 女性のライフサイクル各期における援助（事例検討） 1) 若年妊娠・出産する女性・家族に対する援助 | | | | 事前学習 ・若年の対象への社会支援について調べまとめる。 |
| 14 | 5. 女性のライフサイクル各期における援助（事例検討） 2) 子宮筋腫・卵巣腫瘍摘出をうける女性に対する援助 | | | | 事前学習 ・卵巣摘出による身体の変化や症状についてまとめる。 |
| 15* | 5. 女性のライフサイクル各期における援助 3) まとめ | | | | (45分) |
| 16 | 試験 | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 講義および演習 | | | |
| 評価 | | 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 | | | |
| その他 | | *必要に応じてオンライン授業対応 | | | |

【統合分野Ⅱ】

| 科 目 | 単 位 | 時間数 | 配当年次 | 学期 | 担 当 者 |
|--|--|--|------|-----|--------------|
| 看護技術総合演習 | 1 | 15 | 3 | 1学期 | 専任教員 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | |
| 看護実践に必要なアセスメントを活用し、安全を確保した看護技術の実施を学ぶ。看護実践において重視される看護の優先度を判断した行動、事例や場面に応じた適切な援助を客観的臨床能力試験および学内演習と通して習得する。 | | | | | |
| 時 | 授 業 内 容 | | | | 専任教員 |
| 1 | 1. 看護ケアの実際 1) 1日の業務の組み立て方 2) 優先順位の決定の考え方 2. 症状の観察・アセスメント (フィジコ) | | | | (演習/リフレクション) |
| 2 | 3. 観察と確認 | | | | (演習/リフレクション) |
| 3 | 4. フィジカルアセスメント | | | | (演習/リフレクション) |
| 4 | 5. 症状出現時の観察と対応① | | | | (演習/リフレクション) |
| 5 | 6. 症状出現時の観察と対応② | | | | (演習/リフレクション) |
| 6 | 7. 転倒時の対応 | | | | (演習/リフレクション) |
| 7 | 8. 症状出現時の観察と対応③ | | | | (演習/リフレクション) |
| 8 | 9. OSCE | | | | (45分) |
| 授業形態 | | 演習 (シミュレーション) | | | |
| 評価 | | OSCE 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定めるとおりとする。 | | | |
| テキスト | | 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院 | | | |
| その他 | | 全て演習であり、異なる事例であるため必ず事前学習をして臨むこと | | | |